

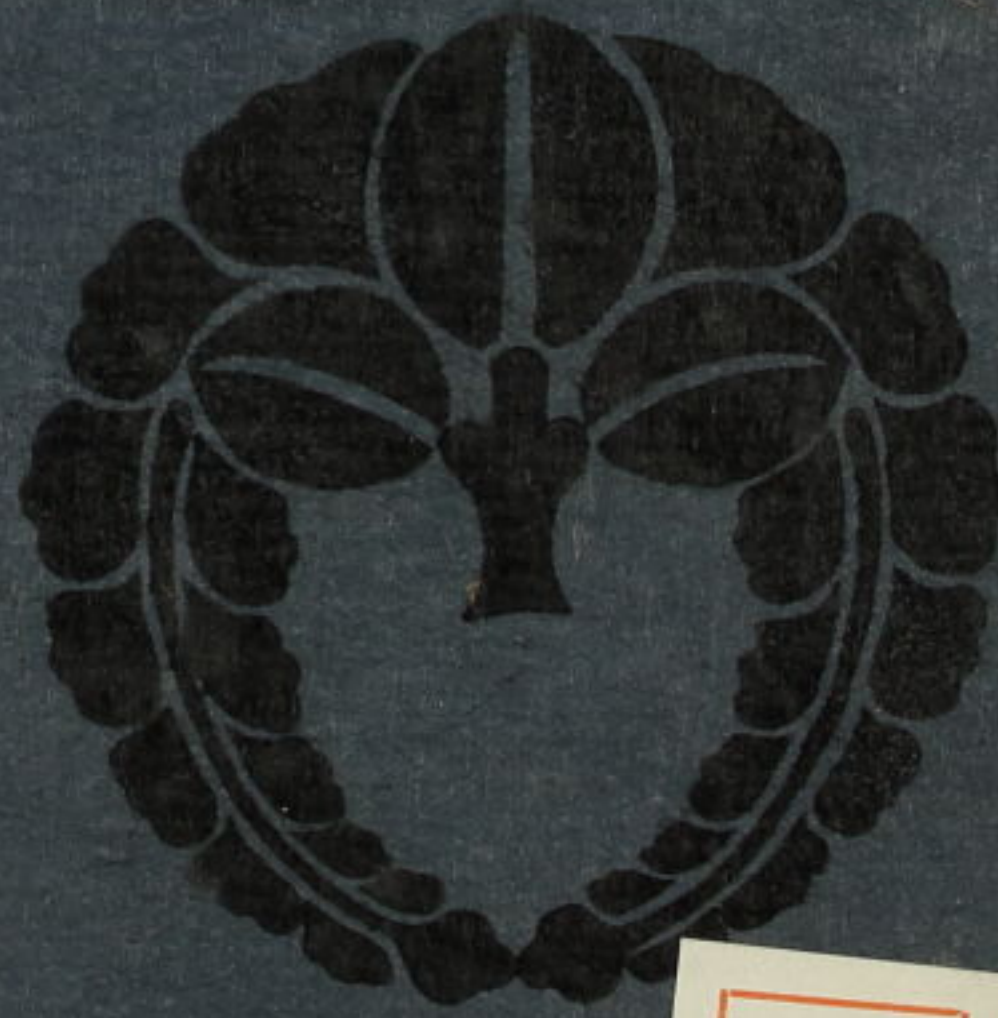


妙見
感應

清正志傳記

初篇

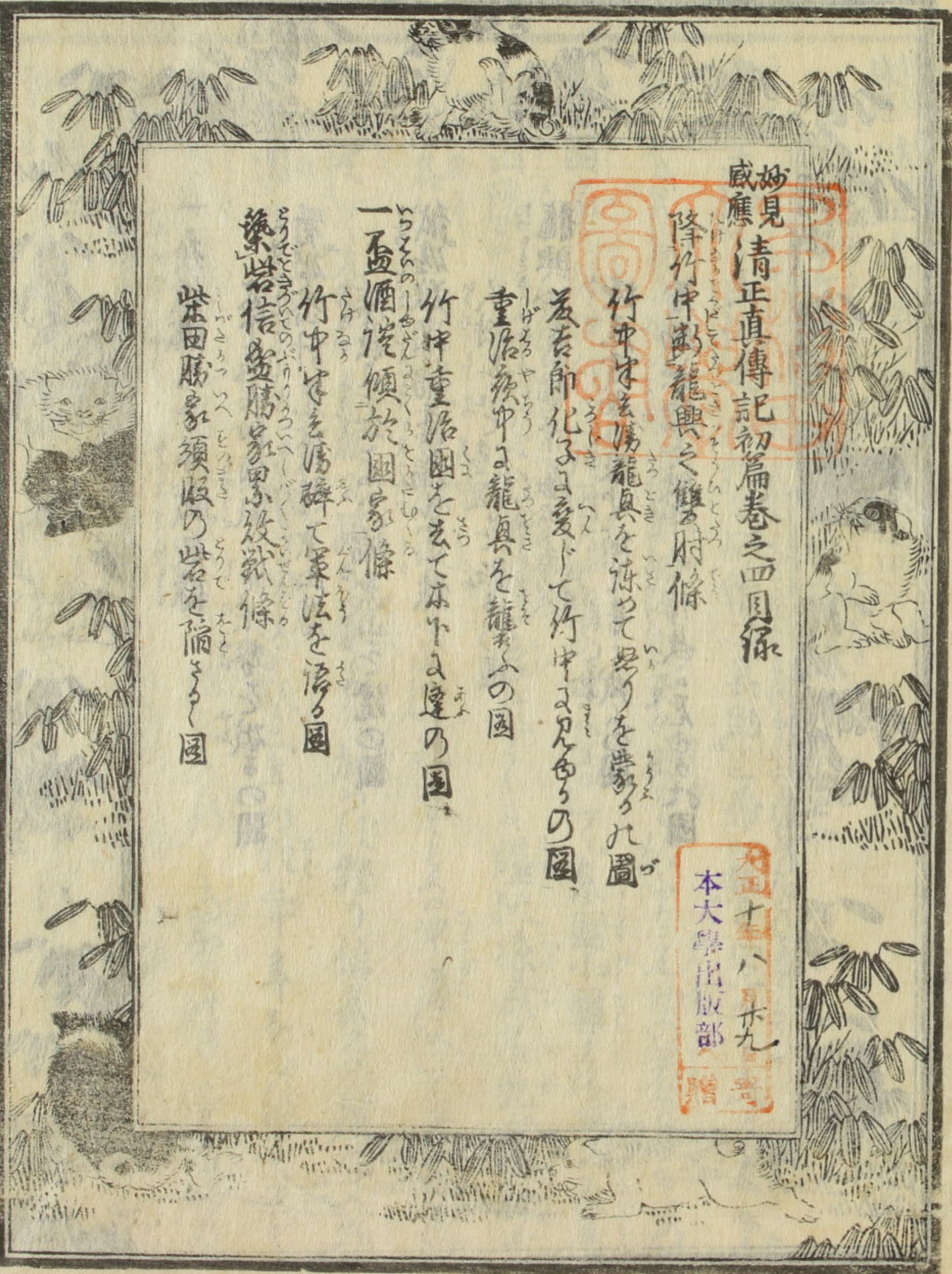
四



~ 13
3333
4



門 八 13
號 3333
卷 4



妙見 感應 清正真傳記初篇卷之四目錄

降竹中納龍興之雙肘條

竹中才去湯龍具を凍つて其を夢るれ圖

後若即化子よ愛トて竹中又ん色々の圖

重治疾中龍具を籠るの圖

竹中重治國を去て本下又達の國

一盃酒後傾於國家條

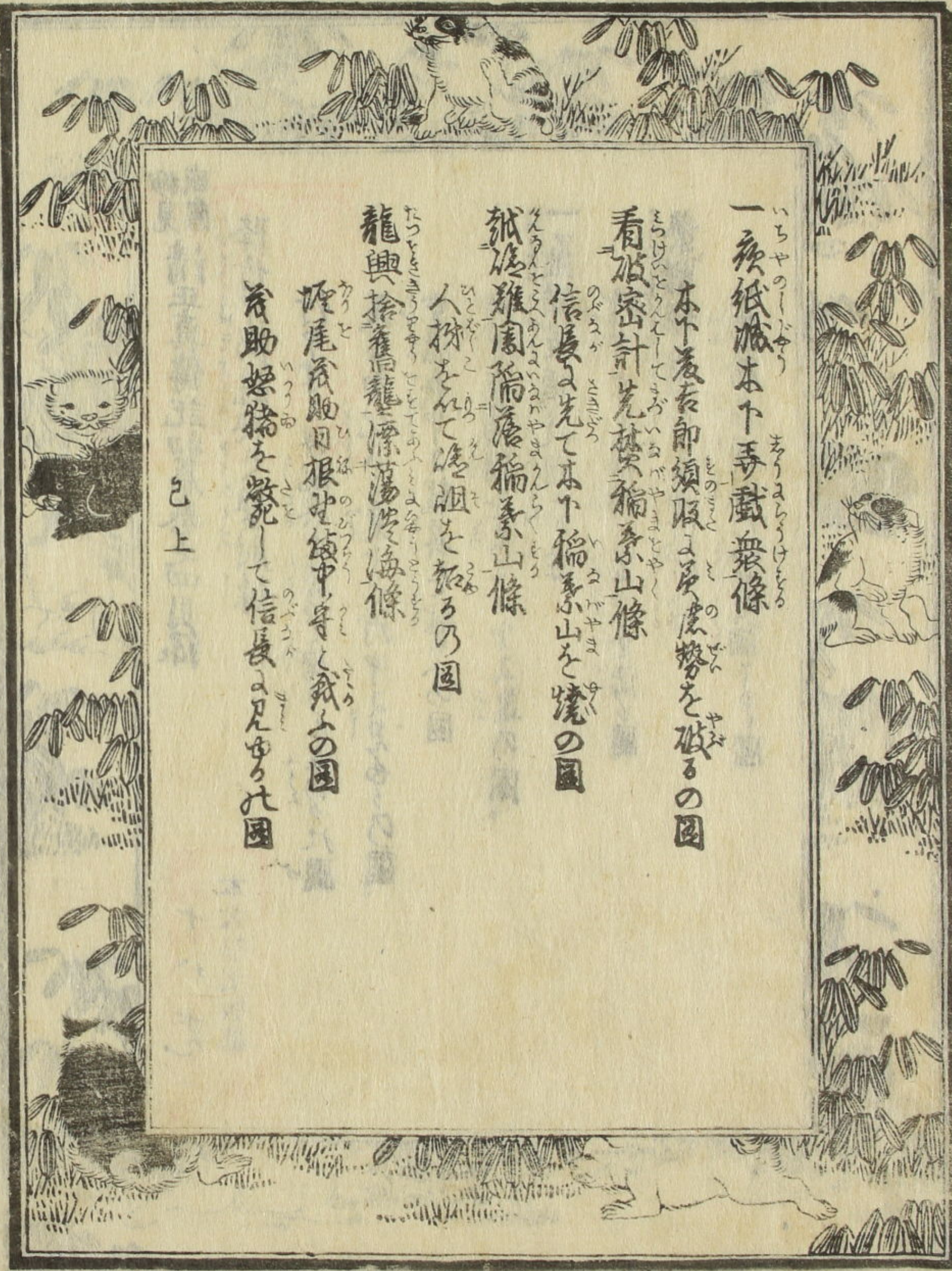
竹中才去湯龍具を凍つて其を夢るれ圖

築岩信盛腸家累致致條

柴田勝家須坂の岩を隔るの圖

大正十一年八月廿九日
本大學出版部 贈

書正記初篇卷四



一疾紙版本下寺戲衆條

本下卷表即須取は度慮勢を破るの國

看破密計先焚稻系山條

信長は先て本下稻系山を燒の國

紙版難園階落稻系山條

人抄を以て海淵を破るの國

龍興捨舊龍潭湯湯海條

龍尾谷助日根建中守く我々の國

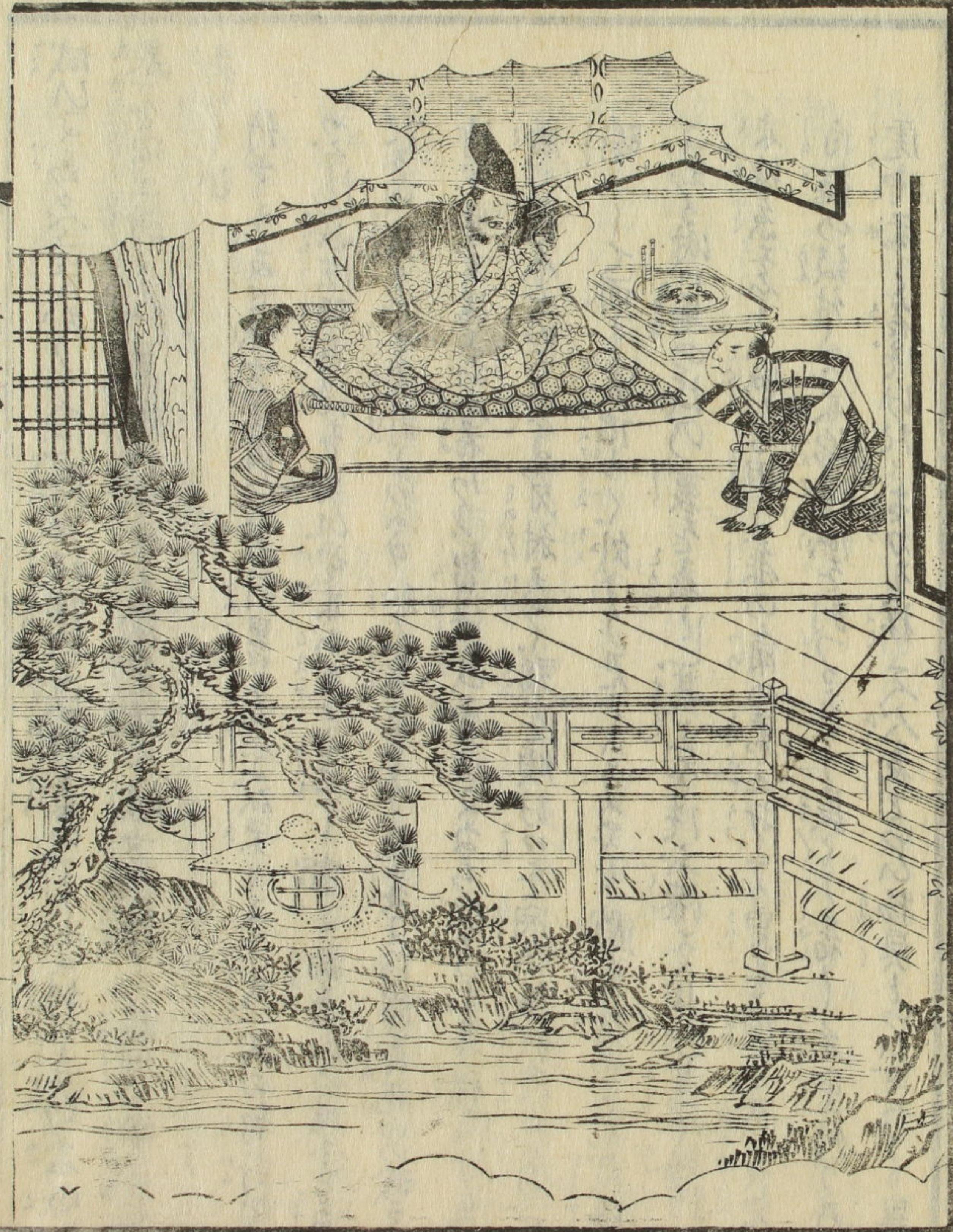
後助怒猪を斃して信長は見申る國

已上

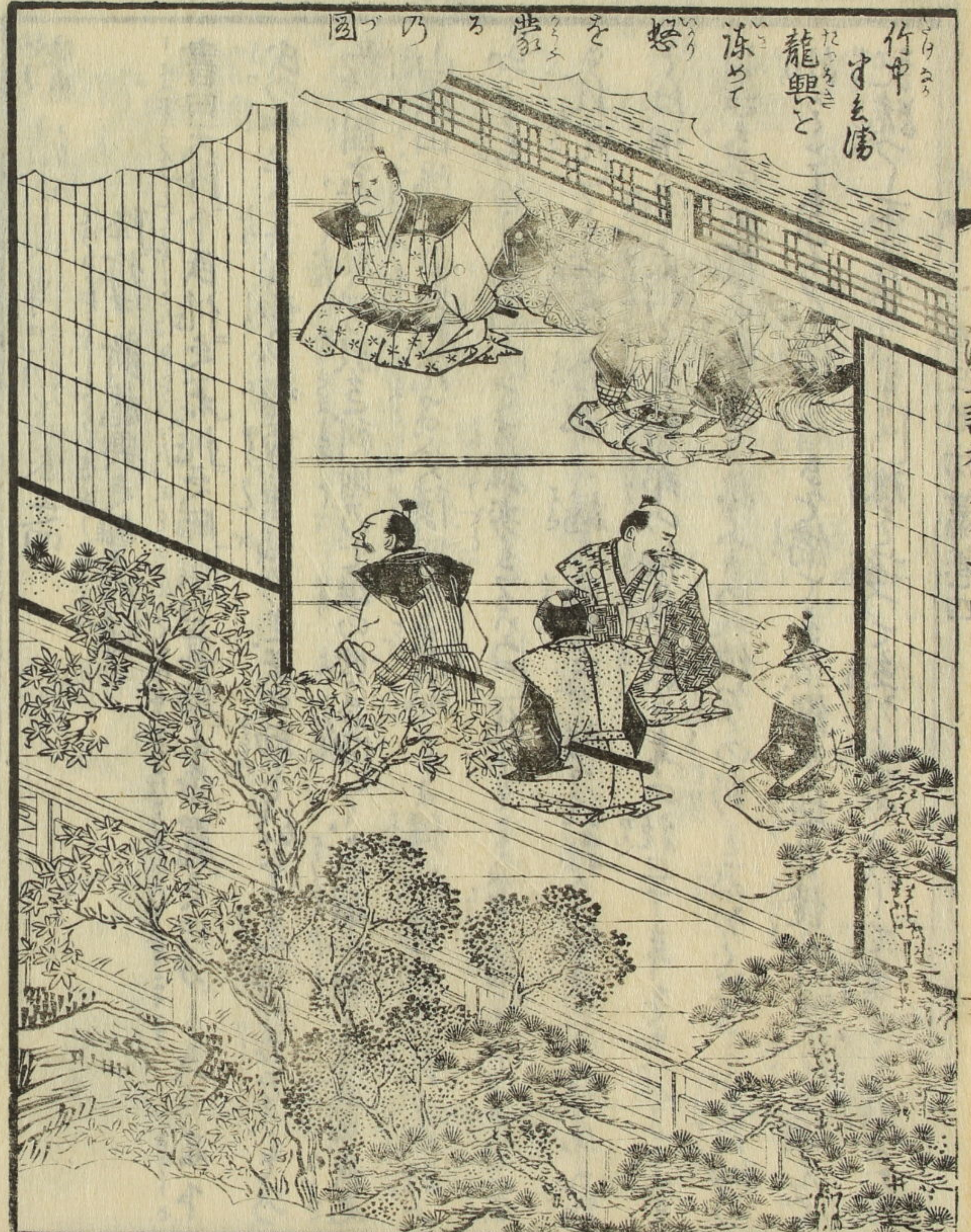
妙見 清正真傳記初篇卷之四

降竹中斷龍興之雙肘條

書曰天降下民他之君他之師惟曰其助上帝羅之に方と云へり。本下
氏の如きい実より妙。智勇兼依の上。天の助を以て元功の君たり。その
黎の國家の私なる形を列國乃七雄の世に當りて。東國小國は武田長尾
山陰山陽は毛利元就。會隣國を帯びて。纏ひ孫武吳紀が肺肝を
出する名を以て一人として才徳芳するは。統と云ふ中道は。てまを果
てば。成して九重の帝都は。橋を翻ると。然らば。智の信長云の。龍尾は。就
とは。謂ふが。指く。是智那の細民公敵。是年の。後三十年を。知れりて。よ
る。き。雲の階。は。糸。糸。り。終る。の。他。の。勢。と。あ。り。て。其。目的。の
外。と。云。ふ。の。信。長。を。備。て。云。う。倒。る。地。は。僕。わ。り。て。金。と。擱。ん。で
祀。跪。づ。く。不。は。い。ふ。事。は。珠。を。搦。つ。て。交。わ。り。あ。り。て。笑。う。る。勝。は。た。る



昔三巴力高云四



竹中 才助
龍興と
凍りて
怒るを
此乃
國

試ひよあまきたかりあむ既又飯初の謀計意のどくよ初り野本小
巻を同土討日し其後竹中は去傍重治を味方降龍興が離手と
矢いむ

竹中を及せ味方又用ひる計畧を及み以承又下氏一尉の智計と
めくし小法師勝海を用ひ申本小巻を乞く密又福系山の城下と云
たる城後までも園計とらふ知人更なるうき家又日圓善托山の城を
竹中は去傍とらふ者たり智謀武勇世又ならびたう年僅又十九
歳之其人とるを及又討るく頭を傾げ口を用き張取負とらふご
醜くして而も言語少く外より刀さくはさるう戯る者てく我場
又出る附馬の皮の裏を表と其とをほふ漆を用ひ著く陰
本綿糸を乞く威たる甲又麻の角の糸又折るる曹を頂き漆又
白餅の致付る本綿糸織を引づるむう長くと着く元重作りの
虎冲糸と名だけれたる刀を摸へん表といひ物具といひさるう異

用を好むとくよ刀入てぐるさ去傍元より秘蔵の家とあは旗下の
智術又竹中遠は舟重房と号し代り日圓取手の領を姓昔秘蔵
入る道三玄威を隣國又震いし附始めて旗取に降る遠は舟重去り
後重治の代又より義龍又子又は一殺回我切を敢せり然大龍興性
急緩急の旨ゆり竹中が外表のいかけ又異風を好むを見て流
す又賢者を判りしとる附り重治の物の用はまき人物ありびとて
めさる以承又小巻源をが菊屋の事又付門戸を塞めらまてり附龍興
の系に於て流りたる換の源をが矢打物とて隣國又ならぶものう
日根持保中守毘弁とて殺されがよと出るう後り其の余の流る
又於てをやされが其村とて喋りき條あり今彼家の屋中又藤
若君入を荒し君の沖傍り記させ奉るりの隣國の諸侯渠が英
勇又款とらるう後り流るよとて同若を入君屋の向を隔源をが心
傍りを配したる附方人又誘し入との結構たるも知べうは此たうた

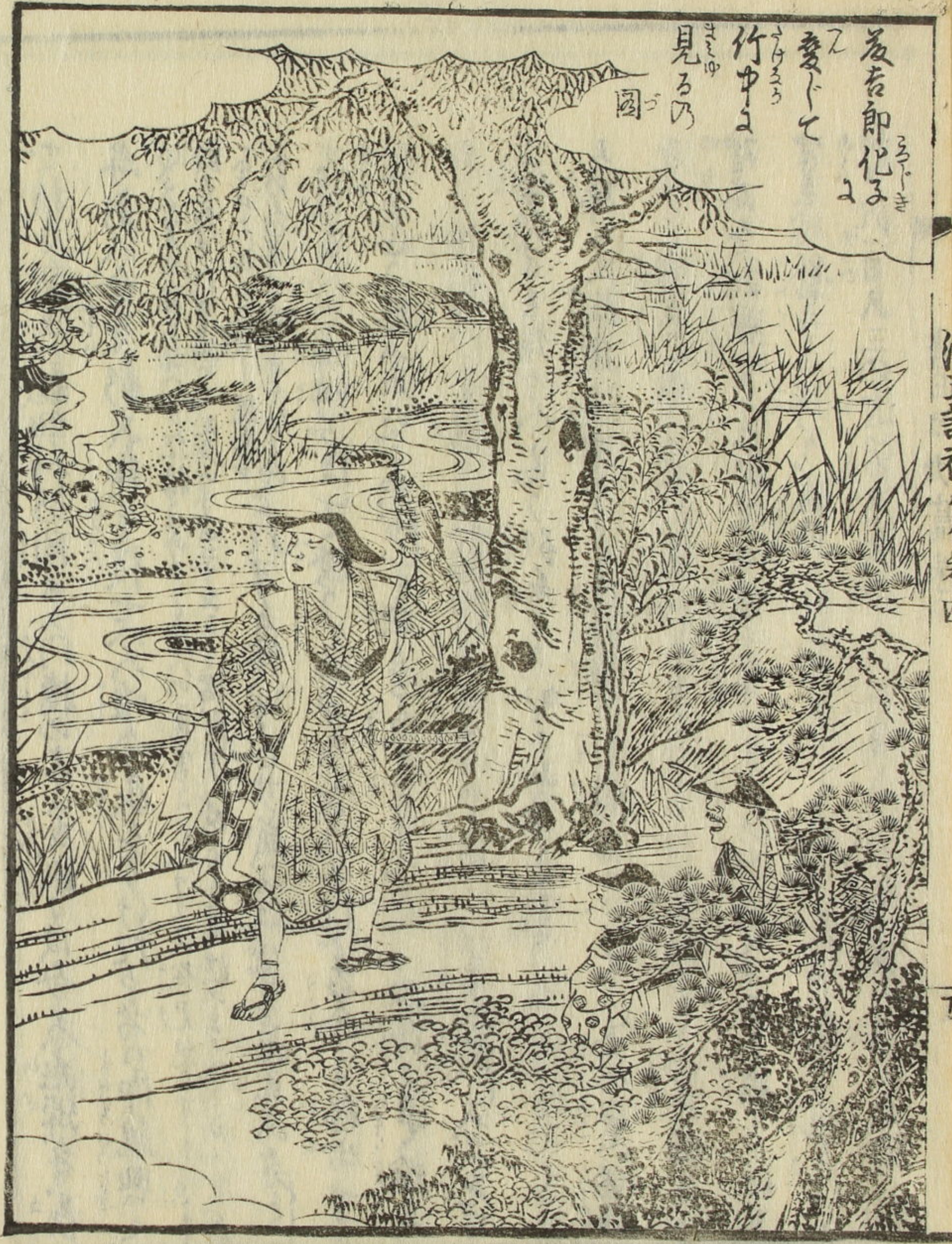
乞と被拜の功蹟を思ふ出さるれば、何と寛宥の義然るなるに收じき
 る。自然他果敢はして行たる珍事を引出、人をし候ひを傷らる
 計にじるとまぐは、撞口流るる小ど、龍興以の外怒りを激し、決手
 謂はざる、流るる都て一國の多る者、自ら一國の衆を受る智あり
 云へ、源を著く行や、此勲功何れも、我家の士、何れにや、果敢の
 衆あり、行を被せよと、き若に威權なき時、臣の爲る程、慢せし勲
 せば、汝傍人なきごとく、獲りに、後論を汲け、人の心を惑と、行
 りぞ、疑と、思ひて、其款を見よ、生得馬、麻敷を、形状と、人の時、勝お、乃
 者、改之の、とく、勇風を、殊と、とる、或子者か、行して、ま、人、若の、心と、知
 ぞ、先、速は、同、通、を、ま、ま、し、と、衆、人、の、中、を、も、顧、以、教、は、言、る、よ、と、流
 石、よ、大、ま、ま、し、馬、麻、敷、と、舞、へ、ま、ら、と、在、合、人、に、れ、も、若、面、目、を、く、忽、識
 面、糸、の、と、く、と、後、と、と、く、と、と、退、出、せ、り、其、後、城、門、を、出、る、時、重、流、か
 改、よ、る、衣、版、へ、向、け、て、衣、版、を、垂、ら、る、者、あり、這、い、候、ら、ぬ、狼、藉、ら、る、と、仰

で後を顧む龍興行の向より門橋の上より、側には、母、衣、飛、彈、守、長
 舟、新、八、合、舟、新、又、即、主、後、七、八、唯、今、衣、を、う、け、た、る、者、り、即、龍、興、之
 は、の、黒、田、孫、右、衛、門、が、死、穢、は、あり、と、我、人、の、義、書、は、久、く、し、又、松、尾、元、元、は、衣、を、う、け、た、る、者、り、
 殿、を、死、せ、し、事、流、は、十九、又、い、ま、ま、三、十、又、い、ま、ま、十、又、い、ま、ま、十、又、い、ま、ま、十、又、い、ま、ま、十、
 て、その、人物、を、撰、一、龍、真、が、
 私、の、人、物、を、撰、一、龍、真、が、
 て、流、ま、だ、て、嗚、呼、が、は、と、憐、り、て、の、り、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、
 憐、勇、心、は、思、ふ、れ、ぬ、や、い、し、と、怒、ら、る、氣、を、た、ら、く、さ、何、れ、ぬ、神、又、是、紙、を、
 却、し、押、ぬ、ぐ、り、て、立、降、り、ぬ、龍、興、近、習、は、る、と、云、付、て、は、喜、小、笑、し、め、又、右
 又、向、ひ、さ、ま、流、が、ん、ぬ、り、候、れ、り、の、り、私、辱、を、蒙、り、な、ら、ぬ、と、と、く、と、
 立、降、る、大、腰、被、這、奴、を、ま、し、尾、張、勢、は、打、勝、ぬ、ら、ま、と、小、太、の、雲、の、嘴、齒
 を、う、と、嚙、笑、ひ、居、る、者、に、幾、程、も、ち、か、く、さ、ま、流、が、言、の、と、く、小、卷、源、を、か
 の、本、を、討、探、し、と、い、ひ、方、耐、敵、る、軍、の、先、見、の、明、あ、る、を、を、感、し、け、る、
 中、ま、流、勢、手、立、降、り、龍、興、が、法、外、の、云、れ、を、憐、ら、と、い、ひ、其、教、を、も、ま、い、
 破、す、一、日、又、三、の、近、習、を、分、率、ひ、故、舊、の、お、聞、が、系、れ、遠、は、出、関、川

吉原巴力用家田



夏吉郎化子
夏トて
竹中
見るの
園

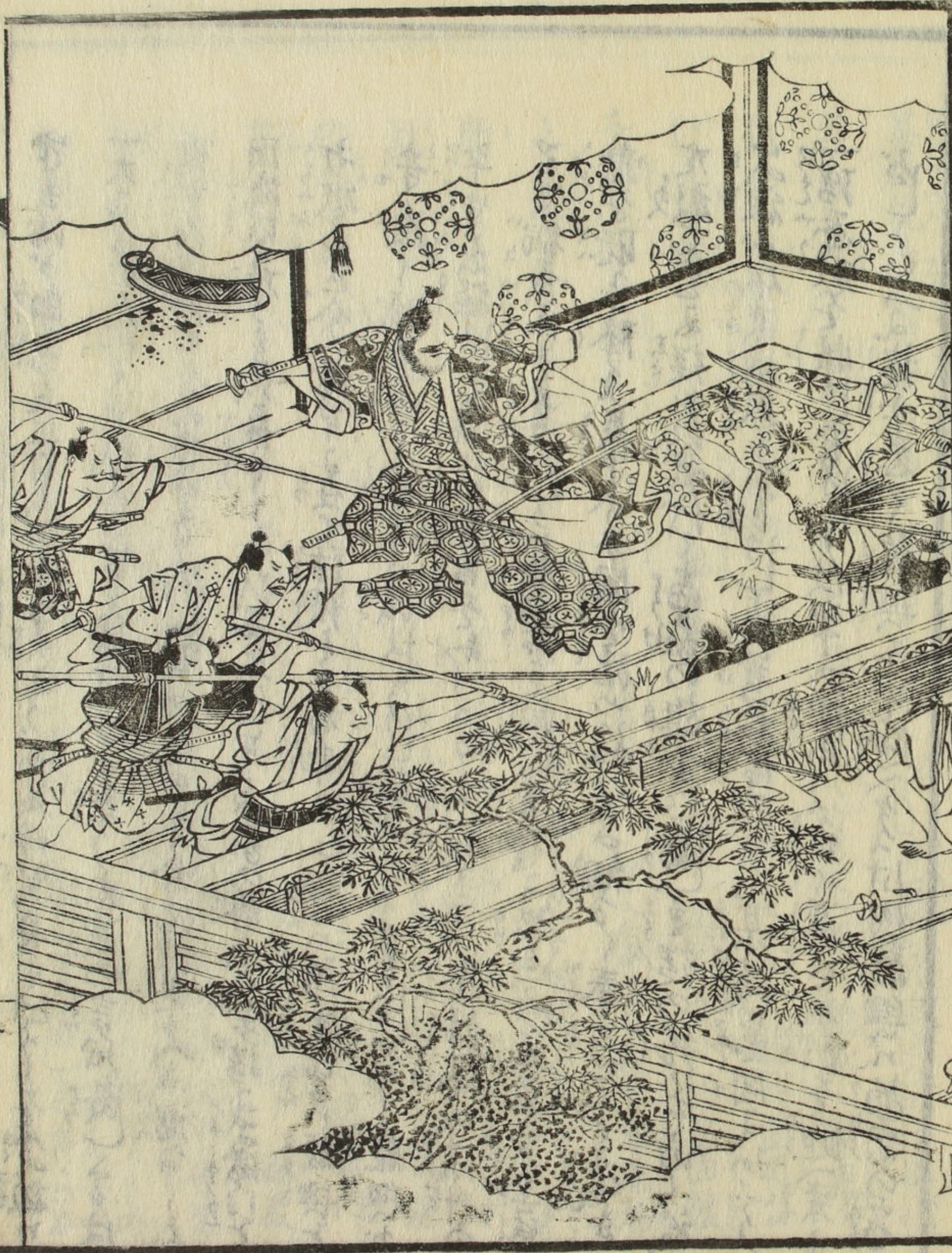


近くなる付地たうく人の叫ぶ聲置くはへう。重治付とて鷹と居
 るに方と貳と顧と川沿の郡は又當のく一群十余は園多少の人羊
 を震ひ肘と振て闘ふ者あり叫ぶ声いとあはら此地之於て近習多た
 丘の上は近習する細く蹠蹠を何人羊の打合者とも乞巧は儻々
 一顧食く園をばたがごとく其中へ一箇の羊と競圍り然るの候と
 引摺り或は耳を引引て打倒んとするも又彼華は衆人と物屑た
 せは腕を被ひて地を撃着踊擣て後状は剣刺其勢地あまこの
 乞食もが暨へき不たのくはせ死と吃く腕もとありに方八面は割きて
 遊去らう。重治多者も被一華子が活動き悪きもやや久ん疾其者と
 呼きよれと云ふ一人の小華華子を引て麻丸の邊りに踞つじむ其と死
 際が空鳥を見ゆる眉の上は丸つの筋あり腫鮮黒はて眼中矢と
 射むる光を後射れ此力なる小童子之重治也て唯今の活動き士
 も及ぶる不あり。行るるや華子を引るぞ華子言へく某は遠國の者

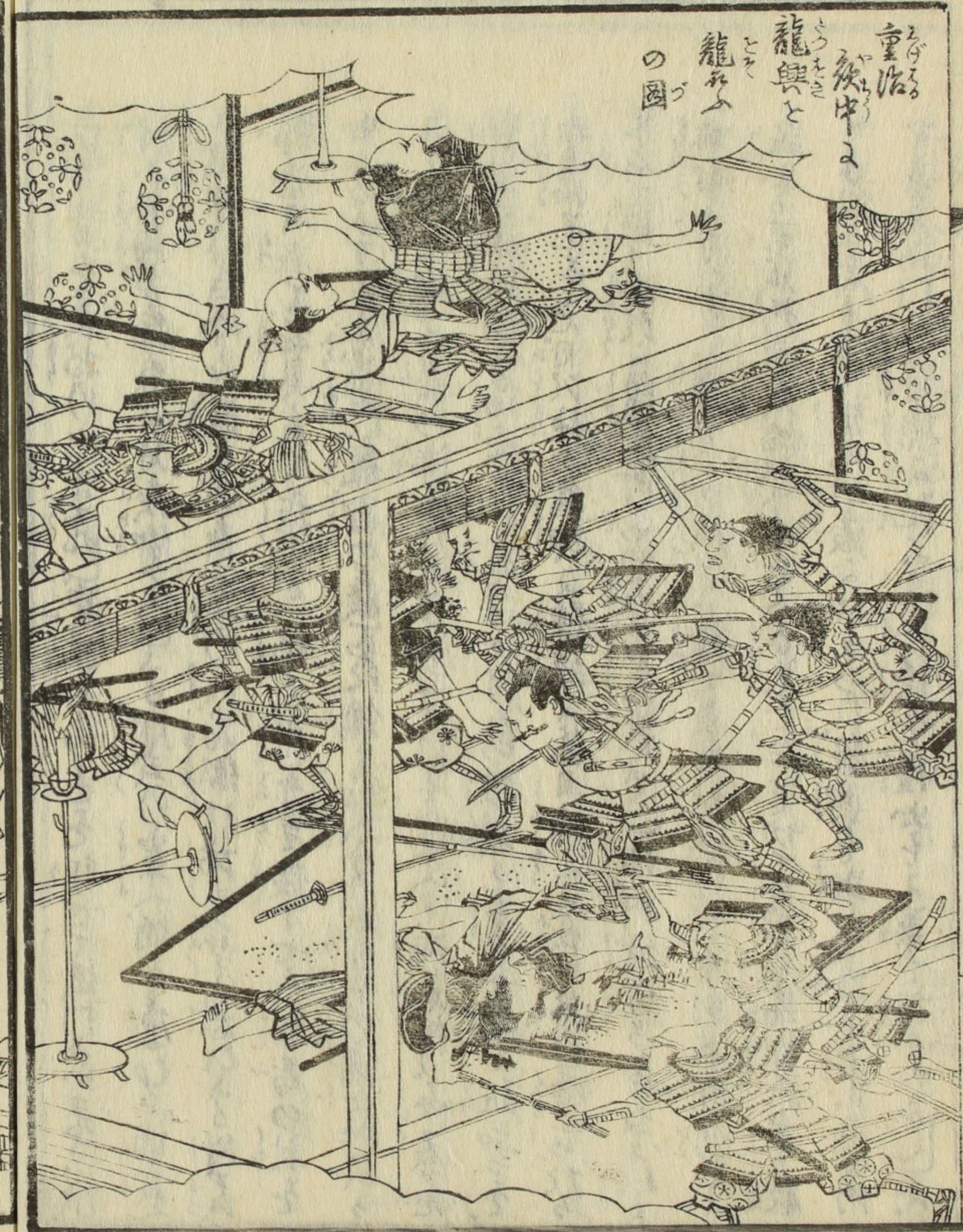
宛不遊失る奴原いとるけ地の者たりと誘ひの参りの願奴が華某をばて
 馬麻若と雲う厚しわたらふけ付宜は及びひき重治宛尔と後ひ海を
 乃自原の幾件の群あり若くは付の怒りも福もあらぬやうは一命と
 うだし候令馬麻と呼きよらうた乞巧人のを際付むうれ死るも人乃を願
 して多し危きまありはや華子も眼を怒りし若し人物の事と見當は
 武門の人の仰た是と。禍福も天命も覆さる。美人も後の人うた世の
 盛衰もよらうてい乞巧もあうり候。零落ても人々人々も生さず終
 膚も寒く又血の賜りの身をま名を揚るやこそ能りた馬麻若と
 喰えんや又血の肉を厚しむる程くと義理明らうよ若くは重治也
 腹あしむと某が流るる我却ては及ぶはと鷹をきて麻丸を故を
 日の暮るるに帰るぬ斯と重治の母及家の附運参るは佛も通きん
 ぶべきのを原くはれいまも顔る若速く限遊せんと志しんは也
 今之回法。龍興若居心とて控き二ツは先日之恥辱をも雪まや

と脱と心中又脱計をらざりし。舅母及修女守。修女守の母は徳川家
むき側の人を退け、某先日小巻が中又脱計ををりし。是因ひ徳川
ろのそを脱計の外、怒り却て恥辱をよへ、後より、尤も又遠く守ふ。道
三入りの恩遇を蒙り、一塔旗の旗を寓られてより、後、若長のおとく
は兵衛の家を愛く、後、義龍、龍興二代は仕へ、徳川三代の好むを以て、
是れをた棄るふ思ひ、一命を抛ら、今一奪、海をきくと、おとくは是
下より、海をき、はじきや、よふ、修女守改を振り、我龍興が、おとくは
よふ、あ、び、竹を死をを凍じ、き、後、家、れ、興、廢、す、天命、は、何、れ、如
し、と、言、の、後、終、休、て、ぬ、く、べき、神、は、凡、は、く、扱、り、我、推、量、は、遠、く、は、と、若
浪、良、く、く、ぬ、く、別、と、な、る。此、時、合、身、久、惟、り、人、質、と、ぬ、く、稱、ま、の、城、中、は
居、て、龍、興、は、脱、計、を、し、竊、は、他、が、方、は、謀、計、を、海、し、る、れ、は、久、惟、其、日、の
病、氣、と、稱、へ、己、が、部、屋、に、引、籠、り、病、日、は、後、い、重、き、神、は、よ、く、は、と、な、る、と、は
去、清、近、お、七、八、人、を、看、病、人、と、て、城、中、は、送、り、永、禄、八、年、三、月、十、八、日、の、曉

方、甲、冑、を、長、持、の、中、は、流、し、重、治、自、ら、毛、を、與、て、城、門、は、出、来、り、は
神、合、身、が、病、氣、は、付、疾、伽、を、ぬ、く、る、朋、友、の、輩、へ、酒、を、度、し、調、度、
と、城、中、は、い、き、へ、を、既、は、其、疾、二、更、の、以、名、擲、れ、諸、士、を、く、憇、ひ、る、時、は、
都、屋、に、在、て、物、具、を、て、先、く、と、一、掃、く、毘、牙、を、後、十、七、人、を、馬、の、林、を
出、る、と、い、く、突、出、し、龍、興、の、腹、に、矢、を、切、入、り、若、長、の、諸、士、は、い、い、
と、發、ま、殿、中、出、出、の、沸、た、る、と、美、く、は、と、を、下、へ、と、胸、着、せ、り、後、是、れ、
彈、守、の、次、の、向、は、若、長、と、て、在、る、が、竹、灰、の、狼、藉、と、を、方、を、後、て、延、出、る、を、
重、治、を、是、日、以、他、が、龍、興、は、壁、隙、を、先、日、橋、と、在、て、笑、ひ、傳、へ、た、る
を、て、怒、り、心、取、り、盛、虎、衝、着、の、大、き、方、を、執、り、は、捕、奸、賊、遊、る、を、な、り、と
與、野、雷、の、ど、く、唯、一、刀、は、切、伏、し、り、續、て、長、身、斬、八、節、日、首、斬、八、節、活、し、く
延、出、る、不、成、竹、中、久、惟、以下、十、七、人、を、先、と、切、て、落、せ、り、若、長、の、軍、勢、
を、多、く、是、れ、若、長、は、被、不、け、處、は、切、ま、ら、れ、龍、興、を、助、け、逃、さ、す、を、い、向、は、竹
中、若、長、の、門、の、後、橋、は、延、出、り、早、待、を、撞、出、と、兼、て、相、違、の、り、は、い、ふ、



青三巴力南三回



重治
後中
龍興と
龍興
の國

清正記補卷四

て他國の主人の旗教を以て寄んとし終つて、恥辱を以て大なるいふ
し、その人の罪を以て、若くは仁智なきが致とて、人若衆の怒を以て、
是れを命と爲り、神の袍を以て被せし、又官位を以て、驚き、
其弊一日の月、又行符とて、つた、此れは、大戒國の旗記、
賦とて、附居、一人、怒を以て、命と爲り、若くは、
怒を以て、命と爲り、今、後、一、又、即、後、
怒を以て、命と爲り、先、日、本、小、春、が、日、討、
小、信、長、が、計、を、以て、命と爲り、
言を以て、命と爲り、還て、諸士の中、
と、終つ、長、沖、志、を、以て、命と爲り、
を、輾、も、終つ、
國、家、三、年、と、俟、
を、輾、も、終つ、
國、家、三、年、と、俟、

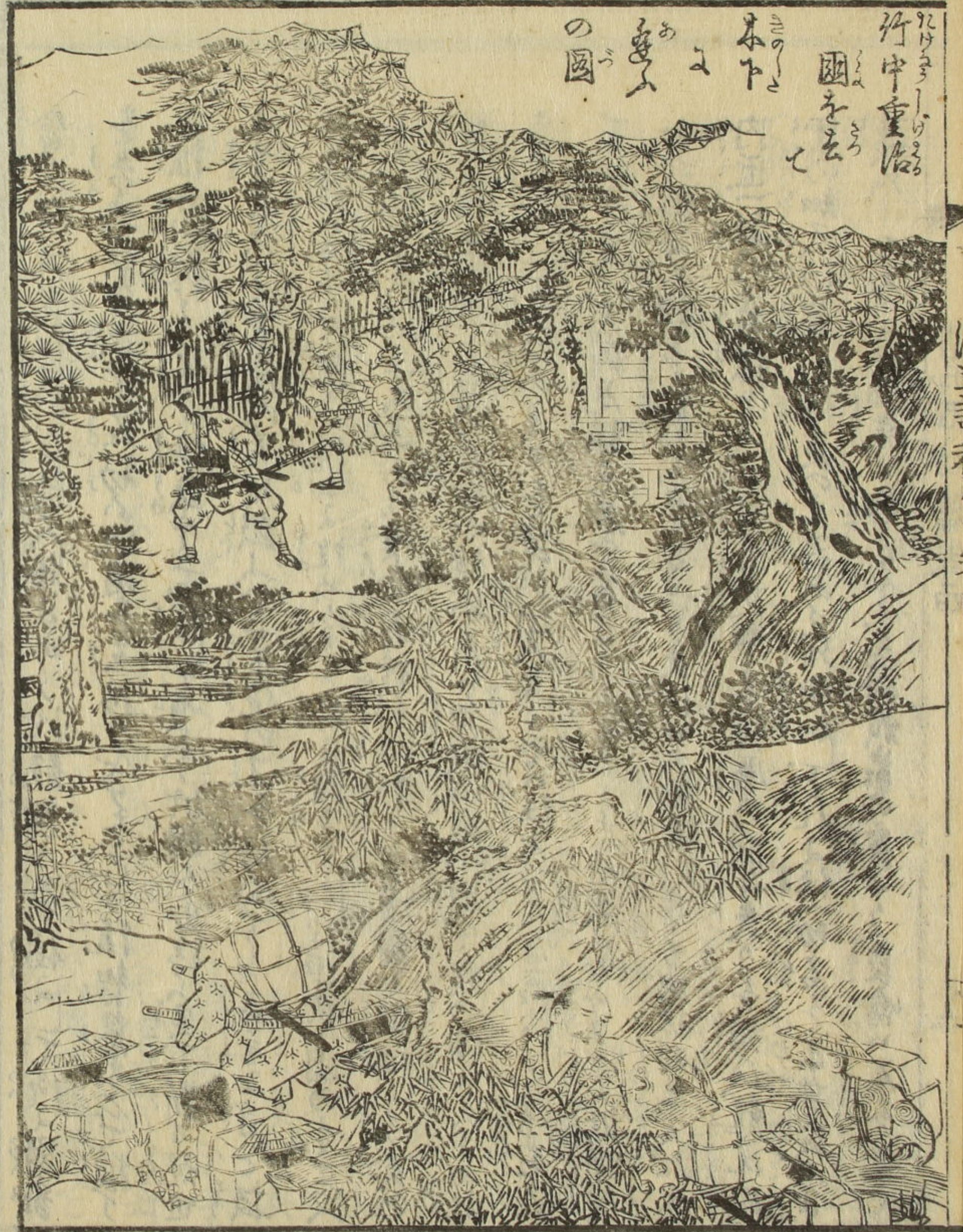
より居城、
を、輾、も、終つ、
歸り、家、
又、捨、つ、
と、石、の、
海、内、の、
の、竹、
を、還、
の、小、
一、
を、我、
族、は、

の電光石火の如く、威風凛々たる重治
と交りて、先日関川の邊にて十餘員の乞巧を奉じて
て我々の彼一箇の小漢を其後方よりひて立出る者あり、先日打倒
指差されし一箇の食才、今日け輩が身との模倣を見る小食、一換の
族は、素方種刃に、故にやうに、あると一騎當千の氣風、あつたる、倅者
見へたる、重治母と、多し、け、小田信長が内、一箇の、麻漢、あつ、面、振
の如く、身量、入、勝、さ、く、少く、膽、玉、の、さ、き、の、り、難、か、し、大、い、なる、猿、冠、者
と、名、の、り、本、流、虎、門、小、巻、原、を、日、士、討、と、せ、竹、中、は、ま、清、又、利、害
と、清、と、候、う、と、後、と、せ、秘、藏、家、の、あ、う、せ、英、徳、國、の、あ、腕、を、割、て、定、めて、中、候
は、け、け、小、漢、子、を、倒、して、ま、ま、清、が、あ、れ、れ、と、放、し、足、下、の、突、又、真
眼、を、具、へ、つ、る、名、士、た、ら、う、る、實、業、の、ど、く、尾、張、團、う、て、猿、面、郎、と、今、呼
ろ、本、中、後、若、郎、其、少、中、本、小、巻、が、輩、の、勇、氣、を、双、と、つ、た、後、見、の、俗、士
少、ぞ、う、れ、い、辰、を、放、せ、う、い、日、士、討、と、こ、び、う、り、足、下、の、入、中、の、龍、膽、と

合めたり、其偽計は徒人物あり、龍興が英傑にして、後、國家
を多し、べきを、識、り、定、め、け、國、を、ま、治、り、し、を、己、が、猿、智、慧、を、な、て、櫻、う
又、推、察、終、り、後、又、後、受、つ、る、本、保、て、唯、今、け、國、を、出、給、ふ、足、下、斯、る、亂、世
又、生、き、天、下、塗、炭、れ、若、瓜、飯、よ、べき、王、佐、の、才、を、傳、へ、な、り、名、ま、よ、ぶ、と、扱
ト、孫、い、ざ、ら、の、珠、を、泥、と、埋、め、金、を、砂、と、雜、る、と、信、長、一、國、の、ま、ま、と、
と、亂、と、定、む、べき、大、器、あり、僕、哉、若、彼、の、お、り、う、諸、國、と、細、細、ら、る、夫、の
風、を、何、れ、の、食、本、國、の、武、田、小、條、今、川、の、勿、論、西、國、小、國、中、國、の、間、又、天、下、の、亂
を、定、む、べき、良、術、あり、を、定、む、け、ん、た、う、で、い、仕、ま、つ、る、ま、ま、若、は、と、後、日、を、
て、心、を、定、め、出、附、尾、張、又、身、を、寄、つ、る、今、某、と、た、い、又、出、つ、る、輩、の、頭、領、は、
小、六、福、田、大、炊、山、新、七、日、く、世、六、を、ま、け、は、久、助、長、に、ま、ま、懸、橋、回、轉、入、松、本
内、匠、一、級、の、家、傳、を、り、毛、等、の、某、國、を、經、歴、の、向、又、ま、り、を、修、べ、龍、虎、風
雲、の、知、已、け、輩、も、信、長、の、大、器、あり、何、同、知、これ、は、仕、へ、功、名、を、求、む、は、偽、り、
孫、瓜、て、天、下、の、諸、侯、と、仰、せ、ん、と、出、附、我、家、の、家、々、良、會、ひ、を、見、ん、



石川 山崎 口

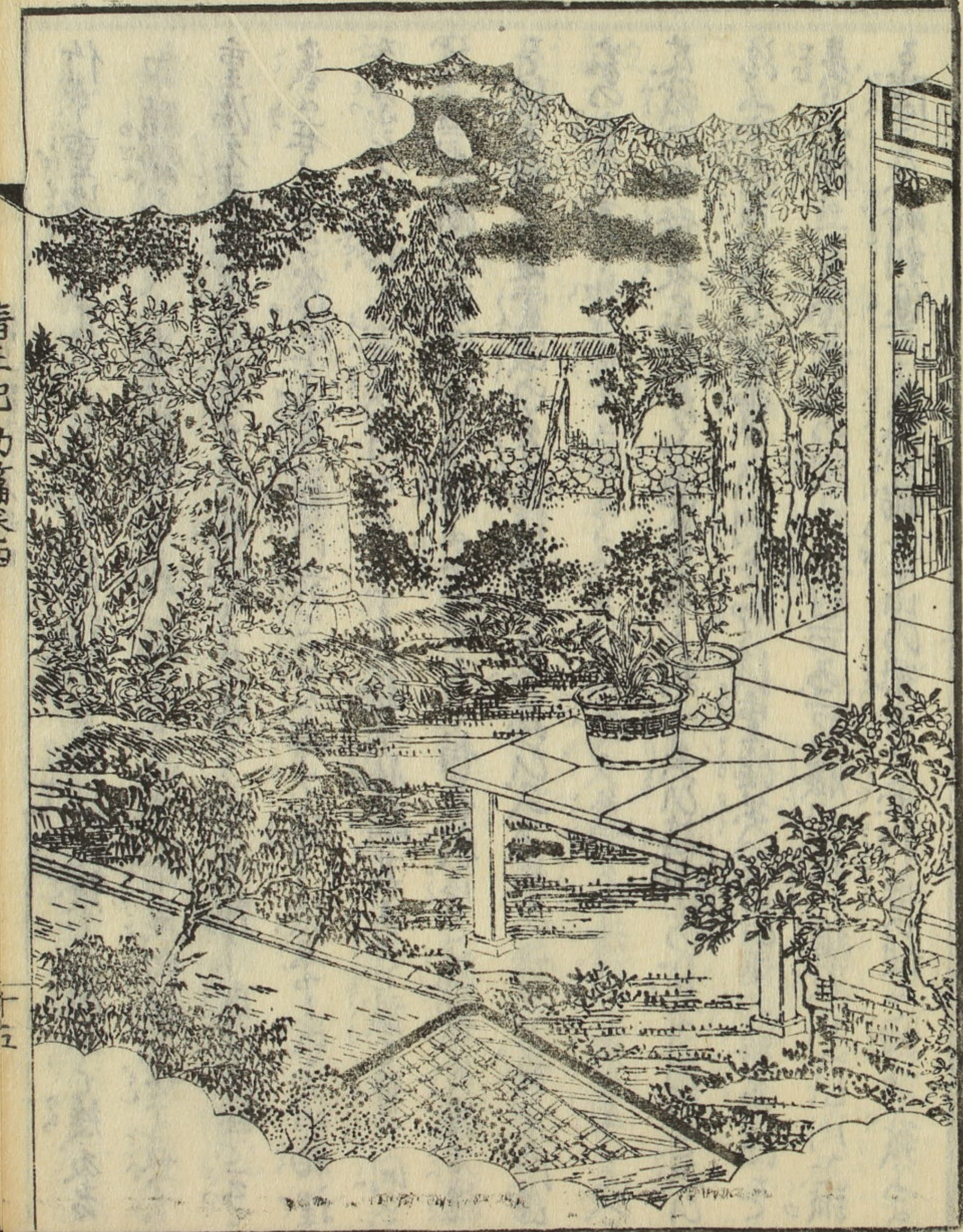


行中重治
國を去
本下
の國

樓良の書を撰んではるゝと、或は信長を助けたり、是下の功を
 載の後までも、朽木子孫五虎の業へあつんと、言後車きよなるがごとく
 口希其變へば、信長朝長を死なせ、今川を破る
 後、威風隣國を震動し、三歳の孩も、久き智勇を著し、信と
 まのは「世を傍若冠う」と、父祖大偉を知るに、海一統と云ふ人物、獨
 け居るらで、あづり、信長と、見識なきもの、まのつ、信長と、重信曾て仕官
 又念あつ、且、信長の事あり、今、後天下を徑歴し、武者、後、終と、終へ
 諸國弓矢の風俗を、一策と、希く、其、ま、任、世、終へ、後、若、即、よく
 礼讓を、任、信、念、は、この、ま、の、教、て、迫、る、を、う、信、長、は、是、下、兵
 法、又、通、達、し、孫、吳、の、玄、機、を、我、り、の、に、終、中、は、知、せ、り、皆、く、我、家、又、通
 尚、あ、て、兵、法、の、淵、奥、を、叩、ひ、て、教、授、し、終、り、一、代、師、と、して、厚、恩、と、忘、れ、と、
 懇、懇、と、著、る、ま、で、重、信、終、り、小、言、る、く、二、つ、は、信、長、の、弓、矢、は、終、り、
 試、ん、と、又、十、人、の、家、士、と、り、ま、下、に、對、て、信、長、の、城、は、銀、き、なる、是、が、後、若

即、竹、中、を、こ、ご、が、家、に、と、め、以、て、信、長、の、市、若、に、お、守、を、請、を、請、
 次、次、と、言、上、し、渠、仕、官、を、練、固、せ、り、尚、も、某、が、家、に、と、め、徐、く、利、望、と、
 説、て、向、ま、又、説、上、し、信、長、沖、院、法、科、な、り、以、汝、が、智、謀、世、人、の、及、ぶ、所、の、お
 ら、尺、鉢、は、小、福、を、ひ、て、又、十、有、余、の、寄、客、を、接、助、と、る、の、空、易、う、じ、と、是
 か、七、百、貫、の、地、を、賜、り、り、ぬ、け、後、は、信、長、開、帳、る、時、本、下、と、た、又、兵
 法、を、論、と、る、ふ、一、を、説、く、時、方、を、察、し、才、機、九、ま、の、歎、又、何、ん、人、を、觀、
 む、や、と、云、く、と、二、葉、も、小、お、び、竹、中、と、り、ま、又、輟、り、後、は、本、下、氏、領、殿、の
 此、石、と、築、き、大、お、も、り、て、籠、る、時、己、が、才、智、の、及、ぶ、所、を、あり、ぬ、け、人、と、そ
 畢、又、本、下、の、ま、お、た、ぬ、り、つ、て、賢、良、士、と、撰、ん、で、仕、ゆ、る、は、家、に、あり、
 と、忽、本、下、の、家、士、と、い、ふ、ま、り、重、信、昔、く、一、城、の、ま、を、己、が、家、業、と、稱、
 て、伏、後、ど、ろ、ろ、を、見る、勝、頼、は、福、田、の、僕、も、と、腹、心、の、家、人、と、思、ま、り、
 ころや

一、盃酒誇傾於國家條



江戸の風景

二



行中守玄湯
碓の
軍法と
語る

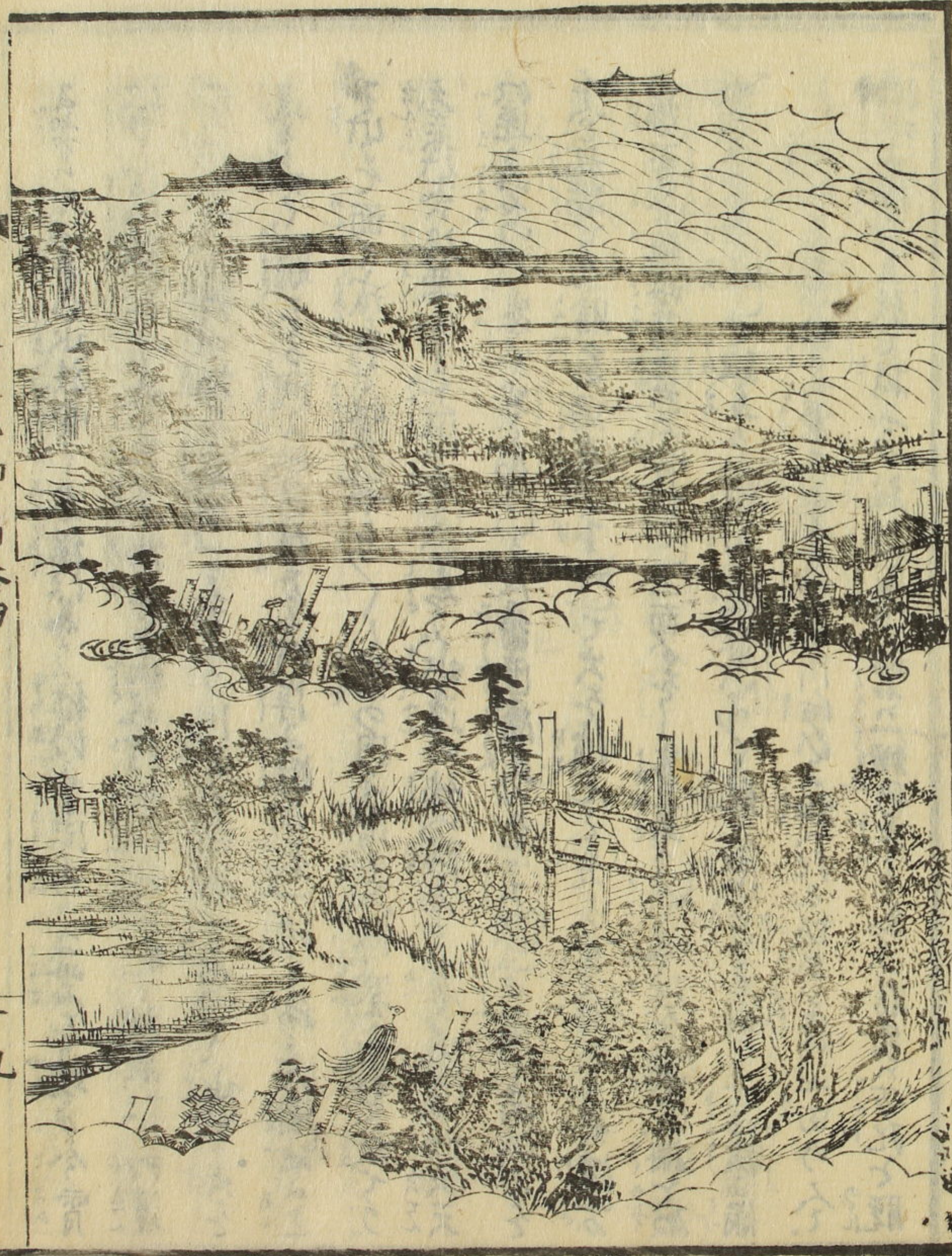
江戸の風景

はして本下氏いざむき家瓜需り給ひらるる事東西徑歴の圃は事を結び
 終りたる心あききの氣を察して爰より重治を以てより後の龍み
 翼と興つらうとて一洲の燕淡松を悟り天啓英徳攻の譯定あり
 須藤の世の中に出て青布の金切を能人と歎き重治は翌日英徳功學の
 衆陣と逐らばと小田家の諸士信長朝臣の衆に集り譯定區くこと
 尤後を云治と費のほして別は勝とて論を致さるるは此州例の差
 者即進出須藤の若くは藤原の利ありの竹中が肺肝の中より
 出らるると我れにして衆人の心を奪ひしは群は推ん出さる確論は日暮
 不和の事本國の川を敢て抗奪して車より終りて若くは感ぜらば
 惟ふ此に龍と云ふべき須藤の川より彼方の秋の地を若くは就して籠ると
 見ふに龍興大軍をうけて攻撃し其時雲霧雨洪水の討ちたるは
 名も合大の恥れ我れ頼り給ひ信長は須藤に後援に向ふるは看く

川の喧嘩と申すはさうして船の頼り猶たはあはしきりのよ
 めは七日の程堪らば水滅船は容易くは誰れ其間堅固の機地を
 抱きし時後座一人としてたまはれり身と云若くは後者即再び席と進み某
 即今若く進めざるのといそを抱る調書ありなるを以て其善治のゆゑ人
 は後下れ造切まうして後石れけらるは一軍機を圖能令後援乃勢を
 場は其身は竹条雅きものゆゑと言語を承りしげに信長凡右を顧み
 誰れ若くは云ふべきは誠は要害と他と云るが安閑と見物と云若くはあは
 英徳方の英勇亦奉り劫らるる必死之也と又今秋の二大役我れ思ふ若くはあ
 是造切の切らばと宣へた佐久間右衛門尉信盛とて出陣近人敷二を兵士
 三万余騎に引け給ひ兵士を以て秋の来るを押し後援を廻す十日の間は若く
 築造しとていざむきは信長はとて兵士人織を編みぬ信盛は秋の分
 り築造未ださうさう小日根也佐中守日孫次右衛門尉村賴も東

兵隊方源なき勇士三万余騎を押し寄せ、踏石をよる仇之間の勢と一戦を
 破中にも、彼中身長銀鉄棒と振て善法湯に近入、其々の銀奔陣寨、火を
 放、藤波の用材一炬も焼盡、信濃乱火の中り、て頼朝鬚眉毛と焦、降て
 逃げぬ。信長大に怒り、此柴田権いひ、令せり。勝家、二回、後騎せる余騎、
 表近藤、まのまを信濃に、信濃が、敵軍の勢を捕んと、並に、後騎の、木に、け、地
 木、西の、山、通、る、遠、方、あり、石の、右、左、の、水、と、て、水、田、多、く、お、ふ、く
 分、中、旬、の、水、は、田、裏、水、後、く、と、備、所、淨、なる、源、は、は、て、後、須、腹、乃、大、け、り、
 勝家、熱、地方、と、按、ぶ、善、法、湯、を、上、七、丁、を、と、り、水、田、の、地、と、小、なる、遠、方、と、三
 方、に、お、を、後、上、げ、其、より、は、柵、を、構、へ、て、敵、の、者、を、お、押、し、諸、軍、を、お、断、り、て、戦、ひ
 と、し、り、し、後、の、方、の、川、を、隔、く、南、の、地、に、後、身、右、近、藤、波、田、の、人、々、加、勢、三、余
 騎、と、並、に、後、に、て、り、並、し、味、方、危、き、時、に、集、り、戦、ひ、せ、り、と、敵、應、は、使、り、板
 手、近、入、後、に、お、り、知、分、信、軍、来、り、て、戦、を、は、じ、り、九、六、七、丁、の、外、斯、嚴、重

又、信、家、も、さ、な、な、敵、の、者、を、お、推、し、り、外、廓、の、海、門、橋、を、速、く、建、造、し、と、是、夜、
 驚、穿、穿、の、天、を、貫、く、遠、功、甚、急、に、兵、隊、方、の、勢、は、仇、久、間、を、破、り、る、小、敵、
 け、り、一、戦、に、遠、敵、せ、り、三、カ、お、押、し、を、お、断、り、る、人、々、と、り、り、の、友、勝、家、は、防、
 禦、は、中、に、仇、久、間、を、破、り、る、に、案、を、お、違、や、ま、り、え、り、六、日、が、後、に、痛、く
 敗、れ、敗、軍、の、樹、を、お、り、り、と、終、つ、て、敗、れ、を、捨、て、稻、葉、山、に、引、上、り、り、け、後、霖、雨、
 降、り、雨、と、と、け、遠、の、地、も、て、お、細、や、り、小、なる、水、溜、り、雨、の、附、り、来、り、後、霖、
 の、合、り、泥、を、倒、り、後、ろ、れ、が、我、陣、心、は、但、せ、り、と、お、り、敵、曾、て、り、せ、る、に、勝、家、
 敵、法、限、り、り、吳、天、愁、を、奉、せ、り、霖、雨、の、間、に、功、を、遂、げ、と、善、近、入、城、を、籠、り、
 し、り、外、郭、悉、く、お、断、り、し、諸、人、勝、家、が、功、を、稱、し、雀、躍、せ、り、の、人、希、は、は、然、る、も、
 一、日、暴、雨、を、お、り、り、り、け、日、に、後、敗、り、る、今、れ、に、遠、河、の、水、勢、激、し、備、所、水、岸、
 と、渡、て、水、源、を、お、り、り、り、り、月、根、中、身、先、牙、の、切、き、り、り、川、邊、に、
 今、も、水、練、の、勢、恰、り、水、物、の、負、重、と、遠、か、渡、り、其、の、の、兵、百、余、人、を



吉正己カ編巻四

十九



紫田勝家須取の國
紫田勝家須取の國
紫田勝家須取の國

又考らぬは重の水族金、赤保はあつ、行はるは洪あつ、又岩を焼く今宵
はあつ、後頼はあつ、の又火薬物具を納め、河伯水外、あつ、兼たる和達
の天はあつ、のく俣の桶を服、二里をうり川上、急流、あつ、水勢を
送るが如く、一瞬、あつ、向、あつ、此の後の、河岸、あつ、激、あつ、一、あつ、河、あつ、地、あつ、
あつ、と面、あつ、戒、あつ、は、あつ、や、あつ、と、あつ、の、あつ、内、あつ、入、あつ、陣、あつ、塞、あつ、火、あつ、と、あつ、放、あつ、て、
元来、あつ、は、あつ、要、あつ、なる、あつ、上、あつ、洪、あつ、あつ、心、あつ、き、あつ、水、あつ、道、の、あつ、俣、あつ、入、あつ、渡、あつ、あつ、なる、あつ、り、あつ、紅、あつ、火、天
に、あつ、連、あつ、り、あつ、此、あつ、の、あつ、内、あつ、垂、あつ、く、あつ、火、あつ、あつ、り、あつ、は、あつ、番、あつ、近、あつ、廣、あつ、ま、あつ、の、あつ、角、あつ、と、あつ、火、あつ、い、あつ、こ、あつ、を
あつ、と、あつ、執、あつ、踏、あつ、せ、あつ、り、あつ、勝、あつ、家、あつ、諸、あつ、軍、あつ、下、あつ、知、あつ、て、あつ、火、あつ、を、あつ、消、あつ、んと、あつ、元、あつ、を、あつ、集、あつ、め、あつ、火、あつ、渡、あつ、方
の、あつ、勢、あつ、二、あつ、万、あつ、余、あつ、騎、あつ、世、あつ、の、あつ、尖、あつ、と、あつ、冷、あつ、信、あつ、と、あつ、三、あつ、面、あつ、を、あつ、あつ、寄、あつ、来、あつ、り、あつ、明、あつ、地、あつ、を、あつ、震、あつ、れ、あつ、柵、あつ、と、あつ、破
あつ、突、あつ、入、あつ、る、あつ、先、あつ、と、あつ、也、あつ、て、あつ、紅、あつ、なる、あつ、小、あつ、柴、あつ、田、あつ、軍、あつ、勢、あつ、い、あつ、ふ、あつ、く、あつ、執、あつ、は、あつ、洪、あつ、あつ、と、あつ、云、あつ、つ、急、あつ、流、あつ、前
あつ、と、あつ、備、あつ、死、あつ、る、あつ、者、あつ、又、あつ、守、あつ、之、あつ、兼、あつ、て、あつ、敵、あつ、意、あつ、の、あつ、る、あつ、川、あつ、向、あつ、ひ、あつ、相、あつ、へ、あつ、た、あつ、る、あつ、坂、あつ、舟、あつ、本、あつ、林、あつ、池、あつ、田、あつ、の、あつ、人、あつ、を、
あつ、洪、あつ、水、あつ、に、あつ、隔、あつ、ら、あつ、せ、あつ、放、あつ、て、あつ、板、あつ、を、あつ、修、あつ、り、あつ、看、あつ、る、あつ、若、あつ、い、あつ、煙、あつ、の、あつ、冬、あつ、と、あつ、あつ、り、あつ、勝、あつ、家、あつ、の、あつ、万、あつ、死、あつ、と、あつ、脱、
て、あつ、せ、あつ、又、あつ、相、あつ、修、あつ、り、あつ、ち、あつ、る、あつ、れ、あつ、く、あつ、信、あつ、頼、あつ、と、あつ、ぞ、あつ、降、あつ、り、あつ、ける

一、紙城本下、畠、殿、衆、條

須收の装束を焼きて、後信長朝臣例の若吉即を召し、汝定めて、潤勝の
人、遠、あつ、西、あつ、若、あつ、藤、あつ、末、あつ、統、あつ、る、あつ、は、あつ、其、あつ、地、あつ、を、あつ、致、あつ、す、あつ、と、あつ、仰、あつ、さ、る、あつ、元、あつ、より、あつ、天、あつ、の、あつ、徳、あつ、を、あつ、智、
あつ、多、あつ、初、あつ、の、あつ、若、あつ、と、あつ、造、あつ、り、あつ、て、あつ、れ、あつ、は、あつ、籠、あつ、ん、あつ、難、あつ、く、あつ、比、あつ、と、あつ、丸、あつ、切、あつ、二、あつ、つ、あつ、が、あつ、今、あつ、と、あつ、り、あつ、た、あつ、い、
あつ、今、あつ、偏、あつ、執、あつ、を、あつ、願、あつ、ふ、あつ、ま、あつ、づ、あつ、造、あつ、功、あつ、を、あつ、他、あつ、人、あつ、に、あつ、譲、あつ、り、あつ、籠、あつ、城、あつ、一、あつ、味、あつ、と、あつ、執、あつ、んと、あつ、れ、あつ、た、あつ、造、あつ、功、あつ、を、
あつ、當、あつ、り、あつ、久、あつ、間、あつ、柴、あつ、田、あつ、あつ、度、あつ、敵、あつ、と、あつ、知、あつ、れ、あつ、る、あつ、の、あつ、は、あつ、諸、あつ、敵、あつ、地、あつ、を、あつ、あつ、り、あつ、て、あつ、あつ、を、あつ、如、
あつ、後、あつ、は、あつ、日、あつ、に、あつ、其、あつ、同、あつ、は、あつ、敵、あつ、軍、あつ、復、あつ、し、あつ、て、あつ、籠、あつ、を、あつ、竹、あつ、本、あつ、の、あつ、あつ、り、あつ、
あつ、は、あつ、諸、あつ、軍、あつ、を、あつ、傷、あつ、換、あつ、ら、あつ、ふ、あつ、ひ、あつ、り、あつ、斯、あつ、て、あつ、行、あつ、き、あつ、の、あつ、附、あつ、来、あつ、り、あつ、き、あつ、や、あつ、い、あつ、ま、あつ、づ、あつ、若、あつ、命、あつ、を、
あつ、蒙、あつ、り、あつ、以、あつ、て、あつ、勝、あつ、頼、あつ、架、あつ、頼、あつ、田、あつ、の、あつ、人、あつ、を、あつ、私、あつ、に、あつ、計、あつ、す、あつ、本、あつ、曾、あつ、れ、あつ、中、あつ、に、あつ、於、あつ、て、あつ、本、あつ、を、
あつ、伐、あつ、し、あつ、後、あつ、國、あつ、を、あつ、合、あつ、せて、あつ、本、あつ、城、あつ、を、あつ、皮、あつ、の、あつ、山、あつ、の、あつ、邊、あつ、に、あつ、修、あつ、へ、あつ、ら、あつ、る、あつ、や、あつ、仰、あつ、を、あつ、如、あつ、
あつ、等、あつ、國、あつ、中、あつ、の、あつ、人、あつ、を、あつ、書、あつ、取、あつ、る、あつ、人、あつ、を、あつ、借、あつ、り、あつ、一、あつ、夜、あつ、の、あつ、内、あつ、に、あつ、川、あつ、の、あつ、水、あつ、を、あつ、運、あつ、び、あつ、り、あつ、



きの
 本下原吉郎
 須藤又兵衛
 勢を破る乃
 國

清正記カキ用巻四

廿二



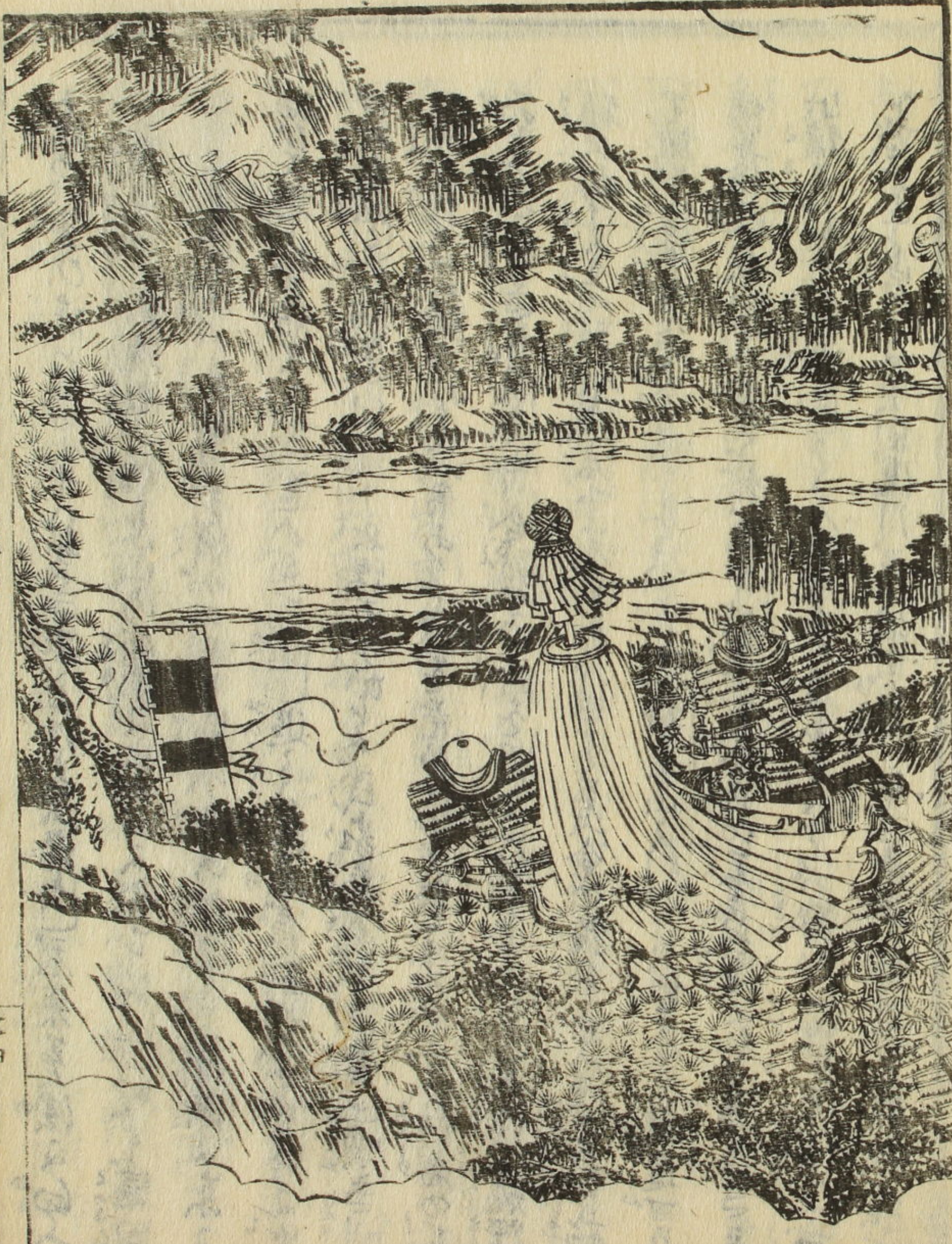
清正記カキ用巻四

廿三

ある日又礼きたら。源回よせま。構又隔り。討る。若敷を去る。佐佐文回。
柴田も又総先級に。又補了。今の世よ。あると民間に。討つたる。旗おの。籠橋。
留の本下氏。須取合戦の。附因ひ。孫は。法之。既。築城の。道進。ら。び。又。徳。
勢。と。傷。て。捷。り。の。を。載。せ。ら。ま。信。長。河。感。斜。た。り。此。世。の。熱。を。る。る。へ。さ。る。
命。口。と。即。馬。越。後。旗。よ。る。と。殺。る。き。免。状。を。賜。り。毛。を。旗。よ。は。甚。り。吹。
後。馬。越。令。泥。押。さ。る。ふ。せ。瓢。車。を。ぞ。用。ひ。ら。る。其。後。威。風。
遠。近。に。響。き。諸。方。の。軍。勢。振。う。る。小。集。り。稻。葉。伴。孫。入。る。寸。後。母。氏。家。の。法。
女。去。後。伴。孫。身。け。軍。の。西。又。法。の。三。人。衆。と。呼。ぶ。龍。興。が。眩。股。と。れ。む。石。の。人。回。と。
受。て。逃。げ。ま。し。其。余。の。國。士。皆。尚。女。法。即。在。清。門。を。着。り。日。く。又。競。ひ。来。り。美。助。
に。致。る。石。の。軍。兵。と。く。く。尾。張。へ。降。り。影。又。集。る。英。士。軍。卒。入。る。人。を。ぞ。使。へ。る。毛。
本。下。も。龍。風。と。小。回。家。に。震。る。の。始。り。なり。

看破密計先替稻葉山條

永禄七年八月朔日信長朝長諸士を集め。内心は。又。法。を。表。え。へ。き。巧。み。と。
改。め。徳。と。今。川。氏。真。を。攻。ら。る。べき。評。定。も。柴。田。龍。川。列。を。進。ん。で。氏。真。
に。謀。せ。り。又。法。を。の。ぼ。が。る。毛。又。き。圍。め。又。法。を。表。え。る。今。般。の。急。勢。を。
今。般。と。て。表。て。凍。凍。せ。り。し。た。法。を。用。ひ。終。り。凡。日。二。日。小。集。り。勢。
搦。込。に。て。使。し。く。何。心。地。急。を。捨。て。寛。を。表。せ。り。又。い。つ。た。り。龍。興。と。て。上。
下。は。又。き。置。ら。れ。る。者。也。斯。て。三。日。に。あ。り。し。諸。軍。小。集。り。集。り。陣。
隊。悉。く。徹。り。先。陣。の。兵。り。打。立。中。陣。既。に。押。を。致。を。也。本。下。も。ぞ。押。
か。ん。と。り。府。信。長。馬。上。と。も。あ。り。る。教。又。宣。ひ。ら。る。我。實。に。又。法。を。表。え。る。用。意。
方。り。後。河。出。馬。と。唱。下。の。龍。興。と。他。の。と。え。る。者。も。我。よ。つ。け。者。た。く。馬。
と。西。段。系。旋。し。泉。田。大。山。の。方。を。修。り。教。を。と。て。進。ま。る。其。の。換。り。れ。り。ん。
係。九。郎。義。隆。の。三。草。と。後。り。一。谷。出。る。射。諸。軍。斗。と。卒。乃。以。向。り。世。其。の。意。と。
徹。徹。に。圍。入。致。と。表。え。る。と。鴨。城。の。向。道。夏。時。の。軍。卒。乃。今。相。同。



吉上紀力斎冊卷四

九四



先信長
本下
稲葉山を
焼く
の
圖

吉上紀力斎冊卷四

九四

と増に軍の味方する車は驚き恐るる者なり。元来多岐の向ふ
に秋原尾城須原の穉義山の西南に出町は入分なるに、此の遠回
其不意に出関の長柄川を城心の町に攻入るとの結構は先陣既と東よ
向ひて進む者なり。遂に除かえて還し進むに延希長柄川を里斗は近
付町忽死して穉義山の城は煙天を蔽ふ。民家高を去ると爰に噴き叫
で戦ひ起りて城下に妻入者あり。大船を前め諸軍勢あると。この行者の本
おそと太鼓をき侍候を由、合戦のお祈を足にしむるに、進むに五降り、私煙
猛火の中を至て城を若く本下を若即が勢と是へ令の飄草苗の吹巻風、
甲隊中の軍兵は唯今城下を攻むるに穉義山より入る敵とて詭進す。
信長は悦を限らざり。我軍中此軍は今日の本意曾て知る者なきに、
此様子行かば、憐れはしく人の心と見遣はせざるに、勢ひは隙にて一息は城
と攻むると宣ふに、柴田瀧川を池田良しと長柄川をお向ひ、水煙と

三川の南に池上る時、臣屋懸く煙煙と、本下城方、西の方度、
て諸軍と扱め、人馬の息を休らざる元来本下寸隙なるに、
良由多岐、憂ひ伏蟻の者を由、に方の虚実を伺はしむるに、
石田の細間を以り、今日信長は今日川氏真を誅伐せらるるに、
の後小牧と勢揃、西換御出馬と告ぐるに、
私に穉義山、池田川に軍細間を訓ふる、
の御も、先達て穉義山の市中に細間とせ、其身今朝、
余の勢を率、南方の町は本下を押しせり、
馬を曾て防戦の石を配り、
是須原の勢をせり、市中一帯、
本下と穉義山、町は入分と出矢、
兼て入込本下、内所市、

信長公記

三

燒垣六城中乃物後、本戸を捨て引退き、圍く城下と奪一と之
誠恐難圍、陷落、稀、系、山、條

本下、一、州、の、謀、計、より、忽、編、系、山、の、市、店、民、屋、を、燒、く、ら、ひ、孤、城、と、し、
滿、是、之、時、に、備、く、陣、藩、を、さ、し、秋、日、も、候、を、邊、て、美、國、じ、と、云、つ、べ、
海、へ、大、久、比、徑、り、ち、り、或、け、い、道、國、兵、隊、の、要、害、山、路、迄、退、却、し、て、可、お、
澄、々、葉、の、終、頂、と、ある、と、都、て、三、ヶ、石、の、関、門、あり、常、廓、論、が、中、の、方、々、
長、雨、川、の、水、を、出、り、立、秋、作、り、ぬ、ぬ、山、霧、藪、く、し、て、城、下、を、
み、守、り、ま、か、く、糧、守、玉、樓、の、空、を、懸、と、う、と、候、ま、さ、し、長、浪、若、の、ど、く、
に、後、の、水、邊、に、石、懸、し、ま、と、又、祖、ら、山、麓、の、屏、風、を、引、つ、ら、ど、く、猿、候、け、し、
と、本、所、の、内、の、橋、を、落、し、斗、帳、す、ん、末、の、城、の、後、より、後、山、崖、重、く、ま、り、入、
れ、入、り、し、て、波、が、れ、百、歲、の、飛、石、落、ち、や、る、を、知、り、南、を、臨、み、の、
岩、は、懸、り、た、ま、い、と、道、に、岩、と、横、へ、城、を、守、り、て、持、南、の、勢、ひ、を、懸、り、

と、密、多、地、は、あ、ら、び、島、嶺、が、雲、の、梯、を、用、ひ、し、り、大、衆、津、重、て、城、門、は、近、き、
金、紙、を、滴、仙、が、蜀、道、難、く、一、ま、出、國、番、ま、莫、前、と、恨、ひ、し、ま、多、の、地、を、や、
謂、也、後、又、美、に、施、り、た、只、用、ひ、て、吟、居、身、之、に、附、本、下、を、即、元、吉、の、西、
坂、の、政、に、あり、け、地、の、形、と、て、難、攻、し、う、日、の、城、攻、を、教、日、攻、撃、ひ、ま、り、と、
段、に、死、傷、の、多、き、て、仕、出、し、る、の、ま、り、き、十三、日、の、雨、より、山、路、の、險、阻、進、
難、く、諸、方、の、合、戦、を、止、り、し、け、り、後、又、寨、を、守、り、し、て、方、勢、を、活、り、
る、に、先、吉、滿、士、と、射、け、け、城、中、に、力、戦、し、て、落、し、ん、と、り、た、軍、勢、を、換、へ、
の、し、て、密、多、地、は、さ、た、是、に、城、の、東、り、入、り、知、り、た、ま、き、臨、城、の、地、を、取、
て、守、り、兵、あ、ら、び、し、て、来、今、霄、雲、晴、て、月、の、華、も、鮮、り、け、後、の、難、攻、に、入、
城、と、邊、に、お、し、の、陶、山、小、見、山、が、集、木、を、墜、し、た、ま、り、其、功、上、と、稱、せ、ら、れ、
勇、名、を、孫、も、傳、へ、ん、の、武、門、の、面、目、を、け、や、と、氣、を、た、ま、り、て、刀、を、さ、り、し、
た、れ、難、攻、を、し、倣、ひ、誰、う、と、否、む、者、あ、ん、命、を、と、り、け、し、本、坂、の、陣、の、合、

身来小市郎 けいしん 小市郎 けいしん 小市郎 けいしん 小市郎
日下千郎 ひげせん 千郎 日下千郎 日下千郎
伊豆余 いずのあま 伊豆余 伊豆余
水子 みづこ 水子 水子
の屋 のや の屋 の屋
と知 とち と知 と知
更 さら 更 更
山 やま 山 山
斗 と 斗 斗
然 しか 然 然
方 かた 方 方

足 あし 足 足
て何 てなに て何 て何
如 か 如 如
以 い 以 以
ふ ふ ふ ふ
度 ど 度 度
六 む 六 六
る る る る
せ せ せ せ
扱 あ 扱 扱
か か か か

てん戎兵糧を調へ城を破て動靜を伺ふ。搦手の要害をやたのこ
久島の兵も彼も在る。熱く寝着て針の毒雷のどく。城中園に敵
菓よりさう出せうけよと十余ヶを放てば杉長山風吹せ。搦手に
方々。諸軍睨て忙し甲冑悉用盡もる。倅もく。人味も素肌もく。
烟も煙も毒まじり。西坂より木下小市即火の光を相送し。藪野も城戸に
攻くる。稻田川内分起り。門関を打破り。苗の吹責金龍の馬騮
帯曲輪を押し。月燈かり。動地あり。

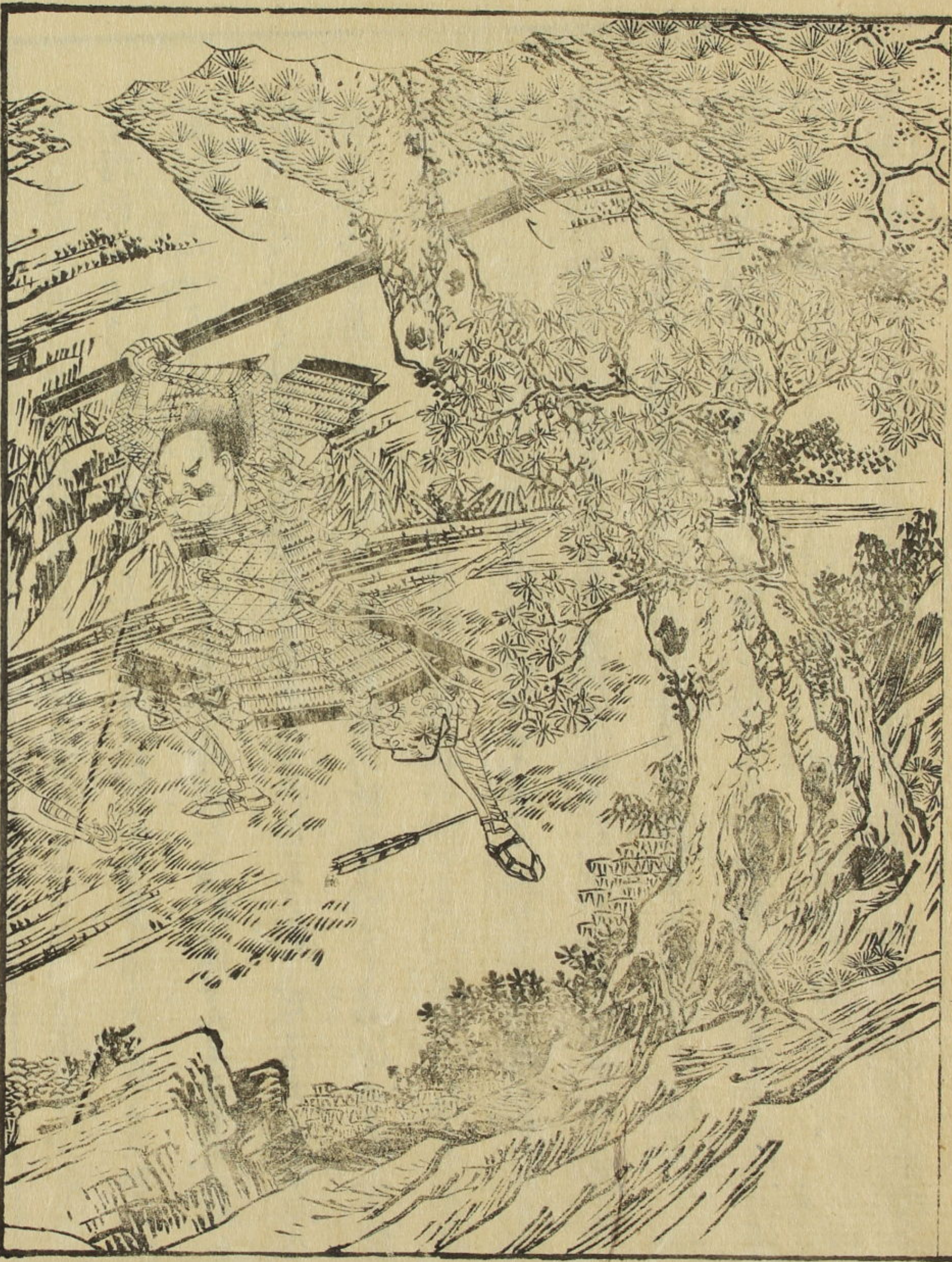
龍興・松尾・龍・漂・湯・渡・海・條

既八月十日の晩天合然の雨。沖諸方の夷は刃へ。急波例の獲冠者々
被起。城攻もどと。一日は強立。柴田の瑞五守乃岩小攻。うら。急聲は此岩小
突て入。壘裏田森池田。この攻は城門は地工。付煙火の中。木下家
の旗翻。歸き城兵二の丸より。引合れば。諸將門く。夷入。孔穴を打破。く。

川根根理傳中守。日弥治右衛門。増三守の岩を守。居り。が。本城は
夷煙起ると。見る。板の守兵の急煙より。惣構を奪ると。差へ。今。今。け
不に。誰。あ。は。る。き。と。岩の兵士。三。余。騎。峯。修。ひ。引。遠。え。ん。と。し。り。付。義。士
い。じ。う。落。う。せ。く。城。兵。三。百。騎。な。ま。さ。う。き。兵。勢。を。斬。と。せ。う。大。力。を。双。乃
勇士。傳。中。守。自。う。ま。つ。さ。ま。進。も。尾。張。勢。の。竹。葺。の。ど。く。孫。び。る。小。倉。松
も。く。討。て。入。に。南。八。隅。は。証。取。り。と。や。二。の。曲。輪。の。坂。口。を。引。還。せ。り。敵。軍。の。乃
勇。將。瑞。系。右。衛。門。牧。村。半。之。助。川。根。中。守。を。救。り。二。の。丸。を。棄。出。せ。り。
森。池。田。尾。張。方。の。諸。將。を。力。を。城。門。を。用。き。た。る。ぞ。付。入。せ。よ。進。も。
又。防。場。切。り。生。き。味。方。使。め。し。て。川。根。中。守。が。兵。隊。を。く。繰。入。り。傳。中。守。尚
門。外。に。踏。止。まり。我。も。構。を。城。戸。お。と。精。心。を。拵。撒。戦。ふ。本。下。の。隊。中。は
六月。迄。の。腰。刺。し。の。壯。士。騎。其。勢。ひ。ま。龍。の。倉。海。を。躍。が。く。川。根。中
と。同。が。け。り。組。ん。近。道。付。長。塚。怒。り。何。れ。東。西。一。徹。棄。り。城。人。と。鉄。棒。

ありを
尾助
日根
後守
鐵山
園

寺田巴力



寺田巴力

九八

は挿美類を以て打つは士隊を振てこれを避けを元々客も多し
いさよ奇有の又其之而雄園一の地中切山窪に立たる後徳の悪も也
相も又救ひかゝく秋味方此勇士後又神あを飲で見物せり。雙園の
カ踏つはは岸の行く端前を纏ひて六七年が程にありて
あつたはは中守り中組伏らまは士忽ち長塚と搦捕てそ引立
たぶんの尾張園と郡供所不の信人坂尾茂助を時討て十七歳に信
長殿の近士之本中氏と須股岩の天宮を命せらる。討其もに屬ら
るを以て出教るき勇士とや。

諸家系圖を接どうふは尾其さきい階氏在原姓尾張園と郡供所
の信人坂尾中務少輔吉久といふ人の嫡子初名に仁王丸といふ名あり尾
張の園人三十六人の其一人之者時幼稚の時母あかき徳母の悪いしりり
きりと思ひ十三歳の討家出同園鳴海の民家よりをとりて表より一六の

まをぞ在る。或時信長朝臣藤持のむけ地の山手に出立ひは茂助山
畠又出秋はくいでまゝる者又將場ひ葉底を穿りたる六五りの大猪一疋
後の逆系鼻嵐をなて吹か一文を近來る大又響き牙を用けは猪はゆと
飛し近ころ又茂助見へは僻者結と呼とらう。換して猪は勇士の丸あり
とや待たたま討り討て飛くる僻あり。今其をばと隠く牙と鳴し
躍り来る元来不意より出うとら茂助も去う。此勇猛な一すの
刃物もく。秋を棄て飛くも丸又折き右又腕。二三回斗をを闘せ
猪いよく奮ひ猛る。今中く適きては適宜川べうも刃をうき力
量よまうせ組伏ん。頭よせい。力毛を引極。他怒りて一びを震
よもの中利力をみて截るがごとくす。か截せり。されんをものも
せ。合別力士乃勇と。組合る。猪の吃。齒着。牙の力を齒斷。は
張ら。難く。無猪。咽の及。僅やうて。喰伏。一人の。不。他。は。見。きり。ける。
犹も。血。か。換。身を。深。朱。と。塗。う。る。ごとく。に。ぬ。猪。の上。腰。お。け。一。息。



成助
志猪を
見信長
之圖

吉田巴力斎家四

三十一



吉田巴力斎家四

